

# 身体表現に対する学生の苦手意識を低下させる要因

伊藤照美 (愛知学泉短期大学)

キーワード: 表現, ダンス, 体操

## 【目的】

保育内容のねらいとして、保育所や幼稚園での教育目標を表わしている5領域がある。その中に幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域の「表現」には、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことが目的として示されている。保育における身体表現とは歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶことである。リズム感や運動能力をアップさせるだけでなく、友達とのコミュニケーションを豊かにし、共に感情を込めて踊ったり、イメージをとらえて、自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことのできる、心身ともに成長できる運動でもある。

保育士には、子どもの発達過程や興味などに合わせた音と動きを提供することが求められる。保育士を目指す学生にとって、ダンスや表現について学び、指導力を身につけることは、必要不可欠である。しかし、人前で表現することが苦手な学生は、実習や現場での指導に不安を感じていることが多いと考えられる。そのような学生に対して、身体表現に興味を持たせ、意欲的に取り組ませて、身体表現の苦手意識を小さくさせたいと考えられる。本研究では、身体表現に対する学生の苦手意識を低下させる要因は何かを探ることを目的とする。

## 【方法】

1. 調査期間:平成29年7月
2. 調査対象:中部地区の女子短期大学 2年生64名(選択授業)。データの記入漏れなどは変数ごとに欠損値として扱った。
3. 調査内容:実態調査, アンケート方式
  - (1)ダンス経験の有無,ダンスについて鑑賞することが好き,得意,ダンスが好き,中学・高校・大学での受講の有無を調査した。
  - (2)身体表現(リズムダンス)の苦手意識について
  - (3)身体表現(リズムダンス)の苦手意識に関連する要因について
  - (4)アンケート自由記述

## 【結果と考察】

### (1)身体表現することの意識について

身体表現を苦手とする要因について相関分析したところ、「身体表現が得意」と「人前で表現することが苦手」の質問項目の合計の相関係数は-0.381であり1%水準で有意であった。また、「身体表現が得意」と「人前で表現することが難しい」の質問項目の合計の相関係数は-0.291であり5%水準で有意であった(図1)。この結果から、保育士を目指す学生にとって、保育で表現することが必要なスキルである事の意識が薄いことが考えられる。他人へ自分の気持ちを表したりすることができない。また、他人の前で自分の思いなどを伝える事が苦手であることなどが考えられる。授業で、グループ

ワークをしている時は、お互いに意見やアイデアを出し合っている様子は見られたが、発表時に観賞している学生に対して、タイトルやテーマをわかりやすく丁寧に説明ができないことも表現力として弱い部分かと思われる。しかし、授業以外で親しい仲間の前では、恥ずかしがらずに、好きなアーティストの歌や踊りを踊ることに抵抗がないことが見られる。学生は授業が始まる前から「表現」に対して苦手だという意識がある。これは「表現」への偏った見方や思い込みも影響していることが考えられる。表現することは恥ずかしい、表現することは難しいなど、学生は表現をすることがいかに苦手であるかと思われる。

また、グループワークにおいては、学生同士がお互いを認め合いながら、支え合い、目標に向けて創り上げていくことが、意欲向上や苦手意識を乗り越えることが考えられる。さらに、幼児体育の中の「表現」である身体表現やリズムダンスに対する苦手意識は、学生の頃から抱えていることが考えられるが、意欲的に努力や経験を積み重ねることで自信に繋がるのが考えられる。

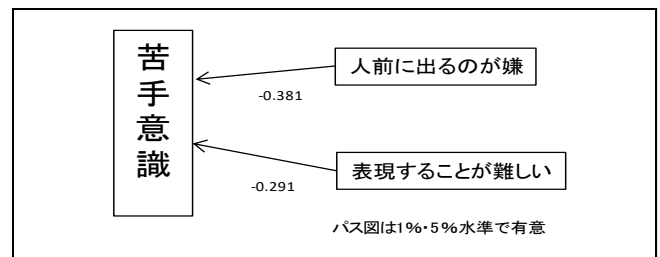


図1 苦手意識のパス図

### (2)自由記述の所感から

この授業を受講した理由から、「就職した時に現場で、発表会とかに役立ちそうだから」、「人前で踊ったり、話したりすることに慣れるため」等と少数の理由ではあったが、将来、保育士になるために苦手なことへ前向きに取り組もうとする姿勢が感じられた。また、グループワークを通して、人とのコミュニケーション力や創造力が向上したこともあげられた。2年生になっても、身体表現をする上で、まだ苦手意識はあるが、今後、保育士として現場に出てからが始まりなのかとも思う。私たち養成校で保育士として育てていくには、私たち教員自身の専門技術や知識も必要である。今回は2年生を対象として研究をしたが、次回は1年生を対象として、学生の意識と授業の内容についても検討していきたい。

利益相反開示:発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

Terumi. Ito